

■ 住職戯言



「尊厳なる命」

「仏心のふれあい」

先日、NHKでコミュニケーション障害などの「発達障害」のドキュメンタリーをしていました。

その後、教育学の先生の「発達障害といじめ」の講演を聞く機会がありました。

コミュニケーション障害などの発達障害などの心理的理由での少数者は、全体の約10%は存在するというお話でした。

その少数者は、多数者にとって、異質であり、日本では、異質は穢れという発想をする人が多くいじめの対象者になりやすいとのこと。

この一般認識によって、子供たちだけではなく、大人でも苦しんでいる方々が多くいます。

私たちは、気づかないまま、自分の感覚の受け止め方を「普通」と敷居を高くして、それを「常識」として相手との溝を作っているようです。

その見えないバリアは、自分たちが多数であるのだから正しいとする、ひとりよがりの「唯我独尊」のような正しさなのかもしれません。

私たちには、身体障害者のためのバリアフリーが言われていますが、「唯我独尊」の心の壁を無くす心のバリアフリーも必要かもしれません。

「天上天下唯我独尊」、お釈迦様がお生まれになられた時、叫ばれたと伝えられております。

妙心寺の管長をされた河野太通老師は、人間シッダールタ太子の誕生として、生まれたばかり

りの赤ちゃんが「オギャー」と叫ばれたのを後の世の人が「天上天下唯我独尊」と聞いたとおっしゃいます。

この「オギャー」は分別のかけらもない純真無垢な命の雄叫びなのです。分別のかけらもない純真無垢な心とは仏心です。ですから、河野太通老師は、これは、仏心の叫びであるとおっしゃいます。ただただ、命は尊いという仏心の宣言なのです。

それは、仏心の叫びを、素直な心、仏心で聞くからそう聞こえるのです。

松原泰道師の『今日を生き抜く智慧』に、教育評論家の方との対談で、小学校の算数の時間のお話があります。

「ここにりんごが四つある。これを三人で分けるには、どうしたらよいか。と先生は問題をお出しになった。すると一人の子が手を挙げて “一人一つずつ分けて、もう一つは仏さまにお供えします。”という。

先生は“だめだ”と言われたということがあるのです。残念ですねえ。算数の時間だから、先生は“一と三分の一ずつ”という答えがほしいのはわかるがそこを“おまえ、いいこというなあ”と、なぜ先生は言ってくれないか。そして、仏さまにお供えしたのをおさげすると、またもとの四つになった。それを三人で分けたらどうなる？と算数の問題に入っても遅くはなかったのですがねえ・・・」

現代社会の競争原理のもとで、生き残ろうとするには、算数の先生が、マニュアル通り教えてくださる一と三分の一ずつという分別のある答えが必要でしょう。

でも、分別だけの答えでは、人間性は育ちにくいものです。松原師は、人とその周囲のふれあいから人間性は育つと言います。人は一人では、何もできません。人と人がふれあいながら、物事は動いていくのです。

現代は、このふれあいに飢えているのです。仏さまにりんごをお供えする子供の素直さだけが、この飢えを癒してくれるのです。

この素直さが、分別を包み込み、人間性のある心、仏心に通じるものなのです。競争原理だけでは、計れない命を尊ぶ仏心と仏心のふれあいにつながるのです。

詩を紹介します。『一年一組せんせいあのね』から、みぞがみさえこさんの「おおみやくん」という詩です。

おおみやくん
ちょうかいのとき
おおみやくん
はしってばかりや
へいきんだいどこへいたり
てつぼうのどこへいたりして
こうちょうせんせいのはなしを
いっこもきいてへん

さえこが手をつないだら
おおみやくんの手は
ほかほかで
ベッドみたいにやわらかい
そのとき
おおみやくんのびょうきは
なおったみたいにおもう
うんどうじょうに
ねころんどったりしているときは
きげんがわるい
そのときは
手がこおりみたいにつめたいよ

さえこさんは、おおみやくんの手をつないでくれました。

だから、普段は温かい手をしているのに、機嫌が悪いと手が冷たいと分かってくれるのです。

分かってくれるのは、さえこさんの仏心がおおみやくんの仏心にふれあってくれたからです。

人と人が、出会った時、競争するばかりではありません。
心と心がふれあうこともできるのです。

それは、お互いの命と命が、たった一つの大切なものと感じ取ってくれたということなのです。

私達の普段の生活でも、現代社会の競争原理である、四つのりんごを家族三人で分けたら、一と三分の一ずつという分別のある答えばかりではなく、お父さんに一つ、お母さんに一つ、僕に一つ、そして、お仏壇の仏さまに一つという仏心の答えも大切にしていきたいものです。

それが、お互いの仏心と仏心がふれあう、命と命を大切にし合う生活につながるからです。

仏心と仏心がふれあうためには、お互いの心に「唯我独尊」のバリアがあっては、ふれあうことはできません。

仏心の素直な心で、自分が何様であるという敷居の高さを無くし、仏心の素直な心で、あなたと私を差別する溝を埋めて、あなたと私をつなぐガイドレールを作っていく心のバリアフリーを実現していきたいものです。

あなたと私のバリアフリーが、実現すれば、唯だ我一つ尊いという我が、天上天下普く唯だ一つの我々となってくれるのです。

そうならば、全ての命は等しく尊いというお釈迦様の誕生の思いがゆきわたるのです。